

# 市議会 田島茂洋議員(公政会)の質問に 大きな疑問・・・

## 「環境整備費」で市の財政は潤うか？

### 石和町前町議が馬券場誘致の実情を報告！

昨年12月の市議会で田島茂洋議員(公政会)は「ウインズ石和に行政視察したが、何ひとつ懸念するところはなかった。」  
 「JRAからの交付金は毎年4千万円から5千万円で、22年間の総計は16億円余になる。」  
 「合併特例債を使わなくてもよいほど財政は良くなったと言われていました」と述べた上で、彦根市でも馬券場を誘致すれば「交付金・環境整備費の交付があり彦根市に貢献できる」から「是非ご賛同いただきたい」と主張していました。

### 環境整備に市財政から20%の補填が必要

田島議員が「馬券場を誘致すれば市の財政に貢献できる」かのように主張している点について星合氏は次のように述べました。  
 「交付金が毎年4千万から5千万円近く来ますが、これは道路環境や橋をなおす費用です。しかし4千万円交付される場合は5千万円の事業を行い、1千万円は市の税金を使わなければ出来ない。しかも、この事業を実施しなければ交付金は出ません。」

こうした馬券場誘致賛成論は本当なのか？  
 ということで「場外舟券車券売場建設に反対する自治会連絡協議会」と「同反対する会」は1月14日、旧石和町の前町会議員星合弘三郎氏を招いて講演会を開きました。  
 原町西団地自治会集会所で開いたこの講演会には60名ほどが詰めかけ星合氏の話を聞いたあと、熱心な討論を行いました。  
 星合氏は町会議員として20年余にわたり、「ウインズ石和」の問題に取り組んできただけに、「馬券場で町は活性化したか」「教育上の問題はないか」「交通渋滞は起きないか」等について事実に基づきわかりやすく報告してくれました。

それも、馬券場の目の前や周囲は広く舗装して綺麗にしてありますが、それは馬券場の周囲だけで一般の住民には関係ない所です。馬券場の一步裏に入れば道路もおっていないというのが実態なんです。  
 道路整備事業も、10年以上経つと馬券場周辺の道路などがかなり壊れてきますので、その補修事業とかが多くて一般の住民が利用する道路にはそれほど影響ない。

交付金で町の中の全てが良くなるという事にはならない、だから馬券場が出来れば全てが良くなるかというそれは駄目です。  
 「ウインズ石和」開設後10年経過した94年12月29日の山梨日日新聞の記事を紹介します。  
 「馬券場があるため石和町には渋滞対策費を含め年間5千万円の交付金が還付される。使い道は道路整備に限定されている。町の歳入は63億円(6年度)だから、競馬の金は1%に満たない額だ」

一方、旧石和町当局の報告書には、環境整備費の用途について「中央競馬会から交付される環境整備費については場外馬券場を中心に半径2km以内の道水路の整備に充てている」と記載されています。  
 要するに、石和の場合、中央競馬会は馬券場周辺の環境を整備する費用を80%しか負担しません。そこで、残り20%は市民の税金で賄わざるを得ないということになっています。  
 これでは「市の財政に貢献する」どころか「マイナスになっている」とも言えます。しかも石和の環境整備費は数年前までは5千万円近くありましたが、近年は減り続け18年度は3千9百万円にまで減少、この先どうなるか不安だということです。  
 これ以上、環境整備費の交付を減らされると、馬券場周辺道路を整備する為に市の財政から何千万円も補填しなければならなくなり、市の財政をますます圧迫していくのではないかという懸念も出ています。

「程度の差はあれ毎週渋滞が発生する。沿線の商店、ホテルは商売にならない」  
 「周りにあつたホテルや観光農園、養魚場は姿を消し、そこいらじゅう馬券場の駐車場と化した。混雑する日曜とは裏腹に、平日は一日中人通りもなく、夜の道は暗い。」  
 これが石和の生々しい実態です。